

札幌市 子どもコーディネーター 高田みのりさんにお話を伺いました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響による、解雇や収入の減少などによって、経済的に困窮する家庭の増加、子どもの貧困の深刻化が懸念されています。

Q 生活が苦しい家庭の子どもたちは、今、どのような状況におかれているのでしょうか？

経済的な困難だけではなく、休校や外出自粛などの影響もあり、様々な場面で格差がより広がっているように感じます。休校中の過ごし方は家庭に委ねられた部分が大きかったため、家庭の状況によっては学習や様々な体験の機会が保障されなかったり、特に家庭の居場所がないと感じる子どもたちにとっては辛い日々が続いていることと思います。

Q 生活に困窮している家庭や子どもたちの孤立を防ぎ、生活を守るため、札幌市では、どのように取り組まれているのでしょうか？

札幌市では、平成30年3月に「札幌市子どもの貧困対策計画」が策定され、困難を抱えている子どもや世帯に対する相談支援体制の充実、保護者への就労支援、ひとり親家庭や生活に困窮している世帯など配慮を要する世帯への支援といった様々な支援策を総合的に推進しています。

中でも、困難を抱えている子どもや世帯を早期に把握し、必要な支援につなげる取組を特に推進すべき施策として位置付け、「子どものくらし支援コーディネート事業」を同年8月から実施しています。

Q 子どものくらし支援コーディネート事業はどのような事業ですか？

この取組は、子どもの相談支援に豊富な経験を持つ「子どもコーディネーター」が、児童会館や学習支援団体、子ども食堂など、子どもの居場所に出向き、困難を抱える子どもや家庭に関する相談を受け、区役所や学校等と連携しながら、必要な支援につなぐというものです。

現在、コーディネーター5名体制で、市内全87地区中61地区を対象に巡回活動を行っています。

Q 子どもやご家族から、実際に、どのような相談がありますか？

子どもが過ごす地域の居場所の方から、子ども・保護者の言動から家庭環境が気になるという相談を多く受けています。保護者にもお会いしてお話を聞いていくなかで、お子さんの行動や生活習慣を心配される相談や、受験を控えて進学にかかるお金についての相談など、多岐に渡る相談をお受けしています。

Q こうした相談を受けて、どういう支援につなげていますか？

保護者の方からお話を伺うなかで、子どもの障害・心理を専門とする相談機関や医療機関を紹介したり、奨学金情報を提供するなど、個々の困難の状況に応じて対応しています。

必要に応じて区役所に同行して各種手続きをサポートする等の支援をすることも可能です。

Q 最後に、悩んでいる方々へのメッセージをお願いします。

子どもコーディネーターは、お子さん本人やご家族からだけではなく、まわりの方々から、「子どもの様子が心配だけど、どうサポートしたらよいのか？どこに相談すれば良いのか？」など少し気になる程度からの相談もお受けしています。

困りごとを一緒に考え、適切な支援につなぎますので、お気軽にご相談ください。

札幌市子どもコーディネーターへのご相談は・・・

児童会館や子ども食堂など、地域の子どもの居場所を巡回しています。
ご家庭の訪問や電話での相談も可能です。

☎011-223-4421（札幌市若者支援総合センター内）

なお、お電話は、10:00から18:00までです。（土日・祝日・年末年始を除きます。）